



戸塚中学校だより



〒333-0805 川口市戸塚鉄町3-1

TEL 048-295-0776 Fax 048-294-0436

発行日 令和6年10月1日

「沈思黙考」読書習慣から得られる思索の機会

校長 川鍋 岳人

「暑さ寒さも彼岸まで」とは、昔から使われてきた言葉です。10月に入り、これまでの暑さからようやく解放された気がします。以前は、秋の夜長を楽しむものとして、「読書」がありました。過去形になってしまいましたが、その理由の一つが次の調査結果です。先日、文化庁が「国語に関する世論調査」結果を公表しました。その結果によると「一ヵ月に本を一冊も読まない人は6割超」とのことでした。詳細な調査方法まではわかりませんが、おおよその国民の傾向を掴むことができました。

ならば、本校の生徒の読書習慣はどうでしょうか。気になるところです。まず、かつて朝自習と呼ばれた時間帯が現在は、「朝読書の時間」となり、各自が静かに読書をしています。また、以前は図書室と呼ばれた場所は、現在「学校図書館」と呼ばれ、教員が兼ねている司書教諭のほかに、市費で学校図書館司書が配置され、新刊書の選定や図書の貸し出し、図書館内の整理にあたっています。特に、新刊書は学校図書館前の廊下に本屋さんのように陳列され、読書意欲をそそられます。休み時間などにも読書をしている子どもも多く、具体的な数字は示せませんが、本校では「読書文化」が浸透していると感じています。この本校の「読書文化」を支えているのが、家庭の教育力の高さだと感じています。子どもたちは、親の影響と教えてくれます。横道に寄れますが、尊敬する人や憧れの大人、理想の生き方なども親と答える子どもが多いです。親としてのわが身を振り返ると、本当に恥ずかしいです。

一方、多くの時間が「スマホ・ゲーム」に費やされていることも、この調査から明らかになりました。わかりきったことと個人的には感じています。スマホ利用者だらけで、今や電車の中で読書する姿など、ほとんど目にすることがなくなりました。「活字派」・「手書き記録派」の私としては、なんとも寂しい限りです。情報化の時代、私もスマホを使い多くの情報を得て生活しています。多くの手続きも、スマホで行っており便利です。ただ、手を止めてじっくり考えることができません。情報処理はできても、私にはスマホで思索ができません。沈思黙考ができないのです。

「勉強の大切さ」を子どもに問われた時、私はまず「考えることを身に付けること」と答えています。その意味からも、今回公表された調査結果から、スマホ利用により、子どもたちから「じっくり考える」という行為が奪われているのではないかと気になりました。繰り返し文章を読むことで、何度も考えをめぐらし、自分の考えを整理し、時に気持ちを落ち着け、不安を払しょくしているのではないかと思います。特に、思春期、心の成長期の子どもたちに活字の読書は必要だと思うのですが、どうでしょうか。本校としても、引き続き読書を推奨し、読書ができる環境の整備を進めていきたいと考えています。

静思（じょうし）

よく見ろ よく聞け よく考えろ 作：大谷 徹瑛

体罰・性暴力等についての調査にご協力いただき、ありがとうございました。

教員の言動について、生徒・保護者から意見をいただきました。思春期の傷つきやすい子どもたちへの配慮が十分でなかったと教職員共々深く反省しています。信頼を回復し、皆様の期待に応えられる戸塚中を目指して努力してまいりますので、引き続きご協力ください。

